

南国市後免町の昭和 25 から 35 年頃を再現したジオラマ制作のための聞き書き調査 —ALWAYS ごめんまちの復元—

橋尾直和・田邑優衣・今井俊太郎・大西優斗・山本美菜・吉川真布

1. はじめに

南国市後免町（近世までは御免町）は、土佐藩の家老だった野中兼山が物部川上流域を改修し、高知城下を結ぶために舟入川を交通手段として通したことをきっかけとし、未墾の地であった場所を商取引の場として人を集めようと、租税や諸役を免除したことが諸役御免の「御免町」と呼ばれたことに由来する。また、土佐藩の郷土の子で「茶運び人形」で有名な「機巧図彙」を著した発明家細川半蔵の生誕地であり、「アンパンマン」の生みの親の漫画家やなせたかしが幼少期過ごした町でもある。そして、高度経済成長期には農機具を製造する町工場が数多くあり、そういった歴史背景から、市内に伝統産業土佐打刃物や農機具、工作機械、金属部品等の製造者が現在でも 180 程度存在し、近年は電子部品の製造、人工知能事業を展開する企業も増えている。

こうした強みを活かすべく、地域と行政と世界的なフィギュアメーカー（株）海洋堂（大阪府門真市）が連携し、2021 年 3 月に「ものづくりサポートセンター」（南国市大塚甲）を開設させ、地域の活性化を目指すべく計画を進めてきた。当初、海洋堂の福富宣子氏より、文化学部の橋尾に「高知県立大学生にも参加してもらいたい」と依頼があり、「地域学実習 I」でコラボ企画として、2020 年 7 月中に進める予定であった。

しかし、コロナ禍で一度に 20 人近い学生を、悉皆調査のために参加させることは困難と判断し、「地域学実習 I」のテーマは、健康づくりウォーク「とさのまほろば（香長平野）の史跡巡り」へと変更され、本調査は、一度は中断することになったが、せつかくの依頼をこのままにしておくことは惜しいということになり、ご相談に乗っていただいた南国市役所商工観光課の上原邦曜氏のご尽力と地元有識者の武市敏嗣氏と山岡茂雄氏、海洋堂高知の今久保康夫氏のご協力により、ジオラマ制作のための聞き書き調査を「域学共生フィールドワーク」のコラボ企画として復活させることとなった。本調査は、2020 年 9 月 1 日、3 日、4 日の 3 日間にわたって実施した。文化学部 4 回生の田邑優衣、3 回生の今井俊太郎、大西優斗、山本美菜、吉川真布の 5 名が参加することになった。（文責：橋尾直和）

2. 研究の趣旨と目的・方法

本研究の趣旨は、施設に配置予定である、昭和 25～35 年頃の後免町を再現したジオラマ「ALWAYS ごめんまち」制作に必要な基礎情報（当時の町並みや人々の生活等）を、当時を知る方（主に高齢者）に写真提供をしていただきながら、写真の状況から人々がどのような生活を送ってきたかについて聞き書きを行い、その情報を地域から提供される地図上に整理し活動成果として還元することである。

本研究の目的を整理すれば、以下のとおりである。

1. 地域関係者がどんな想いを持ち地域活性化に取り組んでいるかを学ぶ。
2. 人々の暮らしにどのような歴史背景があり、地域の方々がより良い生活を求め、どのような生活を送ってきたかを学ぶ。
3. 第二次世界大戦後における日本人の生活（食生活や流行文化、地域の医療福祉など）や産業がどうであったかを学ぶ。
4. 昭和 25～35 年頃の後免町を再現したジオラマ制作「ALWAYS ごめんまち」に必要な基礎情報を地域の方から聞き書きを行い、整理した情報を地域に提供する。

具体的な活動としては、以下のとおりである。

南国市役所商工観光課からご紹介いただき、昭和 25～35 年頃の後免町の様子を熟知されており、当時の写真を所持されている地元の方々に、

- ①地図上で写真の位置を確認させていただく
- ②当時がどのような暮らしや生活・文化であったかについて、学生たちと一緒に、インタビューを実施する。またその際、写真をカメラで撮影させていただき記録・保存し、データベース化する。今回、写真資料は、全部で 162 点収録することができた。

これらのことを達成すべく、事前学習として、以下の項目について、フィールドワークに参加する前に実施しておくよう指示した。

1. 実習を行う地域の地誌について、観光パンフレットや図書資料、web で入手出来る資料等で学習する。
2. ALWAYS 三丁目の夕日メイキングビデオを視聴し、どのような視点で製作撮影されたかを学習する。※可能であれば各自で本編映画を視聴する。
3. 第二次世界大戦後の昭和 25～35 年頃における日本人の生活(食生活、流行文化、地域の医療福祉など)や産業がどのような状況であったかを文献資料や写真集から調べ理解しておく。
4. 3. の学習を基に商店街や家屋の状況（風景）を写真集などで調べ、当時と現在にどのような違いがあるか調べ理解しておく。
5. この実習の達成目標に向け、現地で聞きたい質問事項を整理しておく。

なお、本調査は、高知県立大学文化研究倫理審査委員会において、倫理審査委員会細則第 7 条第 4 項による研究課題の審査を経て、研究計画を実施することを承認されて行った（承認番号「文研倫 20-1 号」）。
(文責：橋尾直和)

3. 調査報告

本調査は、初日と二日目は、二人ずつ、三日目は一人のみの実施となった。9 月 1 日は、今井・大西が担当。鈴江さん宅、西田順天堂薬局、西田米穀店、徳久さん宅を巡回した。3 日は、山本・吉川が担当。関田さん宅、農業技術センター、高知県立農業高等学校を巡回した。4 日は、田邑が担当。とさでん交通株式会社本社、関田さん宅、刈谷さん宅を巡回した。以下に、調査報告を掲げる。なお、掲載可能な写真と説明は、本稿の最後に掲げる。

3.1 報告1 後免町のつくりと変遷

最初に、後免町のつくりについて述べてみたい。

聞き取り内容や後免町を実際に探索してみて、後免町の大まかなつくりを把握することにより、気づける点がいくつかあった。

まず、後免町は中心を通る路面電車通り、その上を通る現やなせたかしロードの二つの道を中心に構成されており、主要なお店や工場、病院などはおおよそこれに面して構えられている。今回写真を提供していただいた家庭やお店も、この二つの道に沿って作られているものがほとんどであった。

ただ、この二つの道の他、後免町は町北側を流れる舟入川から分岐している多くの水路に沿った縦の道が多く、そこにも家やお店が多く立ち並んでいることが解った。聞き取りをからわかったこととして、後免町の人々は昔からこの水路を利用して、山から木材を運んだり、移動手段として利用したりなどして生活していたようだった。今ではあまり目立たない場所となっていたが、昔の写真や話を聞く限り、飲食店やクリーニング店、文具店などおおくのお店が並ぶ場所であったようである。

このように現在の後免町のつくりが、昔の水路を利用していた環境の名残を大きく受けていることが分かった。

次に、後免町の現在と昔の相違点について述べてみたい。

すぐに違ふと気付いたのは、商店街の雰囲気である。昔の写真や聞き取りから、昭和中期あたりまでは、発展し多くの店が立ち並ぶ街道であり、日吉神社のお祭りなど催しも多く活気があったようだが、その後徐々にお店が減り、最近ではシャッターを下ろしている店が多いようである。

対して路面電車通りは、現在でも市役所や大型スーパー、飲食店などが立ち並んでおり、後免町の人々の中心街となっているようだった。

商店街から人が減った原因としては、まず人口が減ったのと、車で移動する人が時代とともに増えていったことがあげられ、これは後免町だけでなく、他の地域の商店街衰退の大きな要因でもある。

昔は、地図や写真から考察すると、家屋よりもお店、工場、畑などが目立つ街並みであったのに対し、現在は、町を探索してみると、家屋のほうが圧倒的に多いことが分かった。

原因を考察するに、昔は個人で経営するお店が多く、お店イコール自分の家という形が多かったのに対し、現在は商店街衰退とともに、そういった家庭が減ったことがあげられるのではないだろうか。現在では後免町の南のエリアにも家が多く立ち並び、昔とは大きく異なる街並みとなっている。

(文責：今井 俊太郎)

3.2 報告 2 まちの形成と生活の形成

私にとってこのフィールドワークは、大学に入って初めての聞き取り調査だった。調査地域が、自分の知らない土地である後免町ということで、大変学びのあるフィールドワークとなった。まず、昔も今も変わらず、多くの人が生活を営んでいるということ、強く印象を受けた。当たり前といえば当たり前であるが、自分たちが実際に見ていない過去の生活を写真で見たり、当時住んでいた人に聞いたりなどの行為によって、その生活が浮かび上がってくるのが分かり、貴重な経験となった。

町がつくられる中で、やはり人々が求める店や設備ができていくのだと感じた。旅館や電気屋、カメラ屋、スーパー、薬屋など私たちが生まれるずっと前から、人々が生活できるように必要な店ができたことが分かった。これは、どこの町にも共通していることで、当たり前のことだと思うが、この事実を再発見したことで、「まちづくり」に活かせるものがあると考えた。

水路も同様のものである。南国市役所の職員さんも話してくださったが、水路や水というのは、人間が生きていくには必須のもので洗濯や料理、農業や運搬など多くのところで使われる。実際に後免町でも多くの水路が過去にあり、現在もその姿を残すものがあった。そこから、生活の実態が見つけられること、特に、舟入川を実際に船が通って荷物を運搬していたと話を聞いたときは、水路によって生活の形が形成されていたことが分かった。

また、後免町は路面電車が通っていることもあり、かなり特徴的な道路の形成がされている。電車通りは道も広く、電車が通らなければ、かなり道幅の広いことがわかる。聞き取りの中で、祭りが行われていることが分かったが、写真を見るからにしても道の広く、神輿等が通りやすいことや、広い交差点があり集まる場所や休憩する場所が確保できるということも、祭りの発展に一役買ったのであった。

商店街は、今以上に昔は人が行き来していたことが写真からわかった。どこの地域でも、大型スーパー等の登場で商店街は活気をなくしていつている。商店街は、目的別の店で形成されているため、利便性を求めてスーパーに行きがちであるが、技術や地元愛で、景観を保っていつてもらいたい。

さらに、写真の中で「高月」というお店をたびたび見た。ここは料亭、タクシー等をやっていたとのことだが、大人たちが集まる場だったとも聞いた。他にも劇場など生活を楽しむために作られていった文化施設など、当時の人々の生活を色濃く残すところの話を聞いたことも、大きな収穫となった。

町は、時代を経て姿が変わっていくものである。それをただ過ごすのではなく、歴史として残し、伝えていくことが自分たちにできるのだと実感した。

(文責：大西 優斗)

3.3 報告 3 古民家に見る後免町の昔と今

フィールドワークで、後免町の調査を行った。今の後免町は、フィールドワーク前に読んだ「旧後免町変遷史ト見聞録」とは、町並みが違っていた。昭和の頃は田畑が広がっていた場所も、時代の流れと共に埋められ、開発され、今では家や店が建ち並んでいる。また、昭和の後免町の資料を見ようと民家で見せてもらった写真では、昭和 30 年頃の後免町は高知市の用水路のように水が多く流れていた水路が、コンクリートやアスファルトで埋められ、今では車が走る道路となっていた。

後免町は、大正時代からとさでん交通（開業した明治期は土佐電気鉄道であったが、2014 年に高知県交通株式会社・土佐電ドリムサービスと経営統合し、とさでん交通が発足した）の軌道路線で、後免町駅前停留所が開業された。この土佐電気鉄道は、はりまや橋方面から後免町駅まで、順次路線を伸ばすことができた。また、この停留所の後ろには、大正後期に土佐電気鉄道安芸線の後免町駅が設置されていた。しかし、戦後になって土佐電気鉄道安芸線が廃止され、現在は、この旧安芸線に平行する土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線の後免町駅が設置されている。後免町は、このように電車にゆかりのある地であることから、路面電車の駅は、普通の駅とは違って個性的なものが見られ、後免町付近にある広い留置線が特徴的であった。昔の路面電車の駅は、木造で「電車のりば」「○○駅」となっていて、地名のように書かれていなかった。

最初に昭和の後免町の写真や資料を見せてもらった民家は、かなり古風で年季が入っていた。町中にも、古風な民家が何軒も見られた。こうした昭和の雰囲気、何十年経った今でも残しているのは、「古き良き町並み」を思い起させるようだった。しかし、昭和から営業していた商店は少なく、江戸時代に奉公職にあった野中兼山が、舟入川を水運とする商業町を造り、その商業町に入植した者に土地を与え、租税を免除した諸役御免の「後免町」として賑わっていた商店街の方も、シャッターが下りた店が連なり、静寂に包まれたようだった。この後免町の商店街には、2009 年に南国市の市制施行 50 周年に当たることから、市街地の活性化などを目的とした南国市や市商工会、住民達がアンパンマンの作者であるやなせたかさんの協力で作られたアンパンマンのキャラクター 7 体の石像が設置された約 400 メートルの「やなせたかしロード」がある。この「やなせたかしロード」は、「少年の心になれる道」と言われ、県の観光情報サイトにも紹介され、商店街の集客効果や経済性が期待されている。

江戸時代に商業町として始まり、電車と商店街に縁を感じる後免町は、現在では古い町並みの風景を残した写真や資料が民家や施設に多く残っており、商店街や町の方も昔のような賑わいはなくても、昭和のレトロな雰囲気も残しつつ、ゆったりと落ち着いた様子が見られた。

(文責：山本 美菜)

3.4 報告 4 昭和 30 年代の記録写真と町並みの歴史

今回のフィールドワークを通して得られたことは、地域の歴史や変遷に関する写真を所有している方がおられることに対する驚きと感動である。

今回は昭和 30 年代の写真を調査したが、今から約 70 年近く前の写真であるにも関わらず、写真の鮮明さ、保存状態の良さがわかり、ことこまかに記録が残されている事実に感動した。昭和期の写真を見る機会があまりなく、また、ここまで綺麗に保存されている写真を見ることもなかったため、当時から大切に保管されてきた地域の方々の地域性を見ることができた。

また、調査に同行させていただいた方々についても、ほとんどの写真について説明やどここの場所のなにであるかを覚えており、当時のエピソードなども、詳細に覚えておられたのが印象的で、現在まで後免に住んでいることも含めて、生まれ育った地域への愛着が形成されていると感じ、自分の地域を卑下せず、地域の活動や今回のような保存活動に積極的に参加されている方がいることは、理想の地域の姿であると実感した。

昭和期の地図や写真を照らし合わせるとともに、地域の方からお話を聞くことができたことで、後免の町の成り立ちや変遷は非常に興味深く、今には残っていない文化や今では考えられない構造の建物があり、当時の豊かな暮らしや文化が垣間見え、まさに ALWAYS の世界観と同じ空気が存在していた。

今まで自分の住む地域ですら、どのような経緯で今の形になったのか知らずにいたが、後免以外の高知の町並みにも、昭和期の町並みの変遷や今と変わらない町並みが残っているかもしれないことを改めて認識し、後免町は神社、電車（駅）、商店街の町並みに後免町の特徴が表れており、個々の町並みの以前の風景を更に意識した。

今回の昭和期の町並みの調査や聞き取りを通して、町並みの歴史や変遷を改めて意識し、これまでに人や暮らしや文化が変化し、時代が移り変わったという記録が残っていることは、素晴らしいことだと感じた。私は、サークルで後免の団体の方との関わりがあったが、町のことについて、話を聞く機会はなかったため、地域の方から直接お話を聞くことができ、改めて地域の方や地域とのかかわり方について考えたい。

これらの写真を通してジオラマが制作され、町の歴史が後世に残るということの貴重さを感じ、今回の聞き取り調査に参加できてよかった。中山間地域だけではない、残していくべきものの形を新たに発見し、これまで以上に高知の魅力を知った。

今回の調査を通して学んだ、地域の歴史や変遷、聞き取り調査の結果と地域に根付く愛着や関心をもった方との関わりを経験を、文化学部の学生としても、個人としても活かしていきたい。

(文責：吉川 真布)

3.5 報告 5 よさこい祭りの変遷と路面電車・線路の特徴

私が今回の聞き取り調査を通じて気づいたことは、2つある。1つ目は、よさこい祭りの存り方が変遷していることであり、2つ目は、とさでん交通にある路面電車・線路の特徴についてである。

まず、よさこい祭りの存り方の変遷について述べる。今年中止されたものの、よさこい祭りは高知県を代表する郷土芸能である。祭りが開催される4日間で、何十万人もの人が出入りしており、四国三大祭りの一つとして全国的に知られている。しかし、昭和30年頃のよさこい祭りは、今日のような賑わいではなかったという。当時は参加者が少なく、団体や会社が日当を支払い、踊り子を雇うこともしばしばあった。また、高知市内に集まり一斉に踊るのではなく、それぞれの地元に留まって踊ることも多かった。よさこい祭りは、開催当初から盛大であったのではなく、時が経つにつれて、今日のように多くの人々が参加する大きな行事になってきたことが分かった。

次に、路面電車・線路の特徴について述べる。とさでん交通の路面電車は、バラエティに富んでおり、私が聞き込み調査をした時にも多様な路面電車が停車していた。それぞれの車体をよく見てみると、アンパンマンや、トムとジェリーなど、キャラクターがプリントされているものや、企業の広告がプリントされているものの他、定期運行はしていないが、外国からやってきたもの等もある。たとえば、昭和24年にオーストラリアで製造され、平成4年に高知にやってきたクラシック電車である320号や、昭和14年に製造され、平成3年に高知にやってきた198号など、歴史的価値のある電車も多くある。198号は世界に3台しか残っていないといわれており、ノルウェーの首都、オスロ市電で使われていたものを、とさでんが購入したという。また、線路も特徴的で、ダイヤモンドクロスと呼ばれるスポットがある。路面電車同士がほぼ直角に交わる場所は全国でも高知県にしかなく、非常に貴重である。現在使われている路線は、はりまや橋～後免町間の後免線、はりまや橋～伊野間の伊野線、高知駅前～棧橋通五丁目間の棧橋線であり、全長は25.3 kmもある。これは日本で最も長い線路である。

今回の聞き取り調査を通じて、住民の方々、市役所職員の方々、とさでん交通職員の方々と直接お話をさせていただき、高知県の市民として、高知県の歴史、文化、経済についての学びを深めることができた。

(文責：田邑 優衣)

4. おわりに

高知県南国市はこのほど、フィギュアメーカーの海洋堂が入居する「ものづくりサポートセンター」のデザインを公開した。2020年度の開館を目指し、近く着工する。海洋堂と南国市は「南国市から世界へ、ものづくりのムーブメントを発信していきたい」と意気込んでいる。建設場所は、南国市商工会の東隣で、敷地面積約4,600平方メートル、建物は、鉄骨

3階建て延べ床面積2,372平方メートル。総事業費は、約16億円で、外観は、宇宙船をイメージしており、3階にコックピットのようなガラス張りのスペースが突き出すなど、遊び心を感じる造りである。この報告が出る頃には、オープンしている予定である。

1階には、海洋堂の工房が入り、見学通路も設ける。2、3階は、地元の多様なものづくりが体験できるスペースや、クリエイターの作品展示、販売などを想定している。この体験スペースで、文化学部の学生たちもジオラマのパーツづくりに参加し、後には、地元の小学生たちも参加する予定になっている。普通車57台と観光バス2台分の駐車場、公園スペースも設けることになっている。

南国市商工観光課は、「海洋堂を軸にしたものづくりの体験発信拠点。ホビー館などがある高岡郡四万十町と連携して、双方を楽しめる仕掛けをしたい」と話しており、今後は、ものづくりを通じて、いろいろな交流の場として活用できることが期待されている。

今回、この調査を通じて感じたことは、地元の皆さんの後免町に対する思い入れが、本当に深いことである。昭和25年から35年頃の後免町の人びとが生き生きした写真を、大切に保存していらっしやる。また、その頃の後免町の様子を、すごく喜んでお話しになるその姿に感銘を受けた。当時は、電车道はまだ現在ほど車の通りも多くなく、その通りを大勢の半被を着た人びとがお祭りに参加している様子を写真で拝見すると、当時は人と人との触れ合いがこんなにも当たり前だった時代だったのだと痛感した。ものづくりの拠点となるセンターに設置されるジオラマ制作に携わる機会を得られたことは、当時の醸成された後免の文化を復活させる作業でもある。文化学部の学生たちが、その文化復活の担い手になったことも、何かの縁を感じた。お手伝いさせていただいたことが、地域に還元できる喜びを皆と分かち合えることができたことは、自分たちにとっても大きな糧になったと実感できた次第である。なお、今回収録した写真資料の162点と解説文は、無事11月26日海洋堂に手渡すことができた。2021年3月21日オープンにジオラマをお披露目する予定である。

(文責：橋尾直和)

【参考文献】

高知県立農業高等学校卒業記念アルバム（1950（昭和25）年度～1960（昭和35）年度）
八十八年史編纂委員会編（1991）『土佐電鉄八十八年史』土佐電気鉄道
南国市史編纂委員会編（1979）『南国市史 上巻』南国市
南国市史編纂委員会編（1982）『南国市史 下巻』南国市
南国市制30周年記念写真集編集委員会編（1989）『レトロ南国』南国市
山岡芳人（1999）「旧旧 後免町 変遷史ト見聞録」（1946（昭和21）年、山本泰一郎氏が1928（昭和3）年1月発行『後免野田校友会誌』を参考に作成。1999（平成11）年、立田辰巳氏・吉本敏男氏ほか、関係資料に基づき再調査してまとめた）

【ジオラマ制作に用いた南国市後免町の写真と解説・抜粋版】



S35年3月3日撮影 鈴江農機製作所付近。
写真左下の横長の建物が旧郵便局。
道路挟んで写真右側が鈴江農機製作所。
現在はサンシャインカルディアになっている。
鈴江さん宅所蔵。



現西田順天堂薬局東交差点付近。
S29年に開催された後免町300年祭の
もの。多くの人が集まっていたことが
わかる。左に西内理容。高月ハイヤー
土電軌道、香月ハイヤーがある。



S33年撮影。日吉神社夏祭り。
祭りで集まって集合写真を撮ったことが
わかる。



S33年撮影。日吉神社夏祭り。
鳴子踊りをしていることがわかる。
徳久さん宅所蔵。



S33年撮影。日吉神社夏祭りの御神輿。
東町・栄町・大西・西町・中の町。当屋は、
7年に1回まわってくる。徳久さん宅所蔵。



S30年8月撮影。日吉神社夏祭り。
天狗のお面をしていることがわかる。
川田和さん宅所蔵。



S36年撮影。後免中町付近。
川田和さん宅所蔵。



S23年撮影。旧平和理容院。
御免東町の現男爵南国中央店
(西内理容店)。今も昔も共に
理容室で同じ場所にあった。



S30年。日吉神社で撮影。後免町保育園卒業
記念。西田米穀店所蔵。



S30年11月撮影。後免駅ホーム。農協
東京日光旅行団の見送り。関田さん宅
所蔵。



S30年12月撮影。西内理容店。後免東町電停
角の名物。木造三階建ての家。待ち合わせ場所
などによく使われていた。先の旧平和理容院。
現男爵南国中央店。関田さん宅所蔵。



S21年撮影。旧山岡農機商會。



S47年撮影。現南国中央病院西側道路。
現やなせたかしロード東側の料理店
「愛婆の店」。徳久さん宅所蔵。



大正中期の後免町商店街。



S30年撮影。後免駅の西側を走るSL。
関田さん宅所蔵。



S30年撮影。正月餅つき。
関田さん宅所蔵。



S30年撮影。正月出初め式。関田さん宅所蔵。



S34年撮影。電柱奥の空き地は、
税務局のあった跡地。さらに
南の交叉する道路沿いにあった。



S30年撮影。利岡建具店。
スズエトラクター。
関田さん宅所蔵。



S34年撮影。後免駅前から南撮影。関田さん宅所蔵。



S32年撮影。搾油 鈴江油脂工業所。
土佐電軌道北側で現在携帯電話の「a u」
のある付近。関田さん宅所蔵。



S28年撮影。創立90年記念誌 航空写真。
県立農業高等学校校所蔵。



S15年撮影。後免駅構内。とさでん交通
本社所蔵。



S30年ごろ撮影。稲吉旅館。北岡さん宅所蔵。

(はしお なおかず・本学教授、たむら ゆい・本学部4回生、いまい しゅんたろう、
おおにし ゆうと、やまもと みな、よしかわ まほ・本学部3回生)